

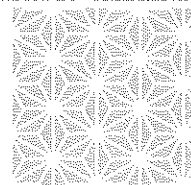
# あさのは

平成 26年 7月 1日 発行  
 発行：長岡赤十字病院  
 長岡市千秋2丁目297-1  
 電話 0258-28-3600  
 ホームページアドレス  
<http://www.nagaoka.jrc.or.jp/>



## 長岡赤十字病院健康だより

「あさのは文様」という麻の葉をデザインしたものがあります。麻は丈夫で縁起がよく、健康を願って、昔から私たちの身のまわりの模様として使われてきました。これをお読みになる皆様の健康を願い、「あさのは」と名づけてあります。



## 虫刺され

夏にむけて草木が成長し虫たちの活動が盛んになってきます。人間もまた海や山、公園などに出かける機会が増え、虫との接触が多くなります。虫さされは誰もが一度は経験しているでしょう。

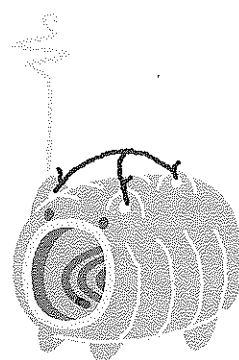
虫に刺されると痒みや痛み、発赤といった症状が現れますが、これは虫の体液や有毒毛に対する一種のアレルギー反応が原因で起こります。この反応には個人差があり、刺されたところが少し赤くなるだけの人もいれば腫れあがってしまう人もいます。軽い虫さされは市販の塗り薬で自然に治るのを待ちますが、腫れや痒みがひどい場合にはステロイド外用剤を塗って治療することもあります。注意が必要な虫さされについて簡単にお話します。

①**毛虫皮膚炎** ガの幼虫である毛虫はツバキ、サザンカなどの葉に存在し、その体には10万本以上の細かい毒針毛を持っています。この毛に接触すると赤いブツブツができ激しい痒みを伴います。しかし毛虫に接触したことに気づかないケースが殆どで、庭仕事の翌日や、外に干していた洗濯物を着た後に症状が出る事が多いです。この場合皮膚をこすると毒毛がより深く入ってしまうためガムテープなどで毛を除去しシャワーでよく洗い流して下さい。痒みが強いのでステロイド外用剤を使用します。

②**ハチ刺され** 人によっては強いアレルギー反応が出て全身のじんましん、呼吸困難、気分不良、めまい、腹痛、吐き気、血圧低下などが生じ、重篤な場合にはアナフィラキシーショックを起こして死に至る場合があります。このような症状が出た時はすぐに救急車を呼んでください。

ハチに刺されたら、まずは安全な場所に移動して刺された場所を冷やしながら安静にして下さい。全身症状がなければ問題ありませんが、刺されたところはかなり腫れて痛みが強いことが多いので皮膚科を受診して下さい。

③**マダニ刺症** 野山に行った後などに突然できものが出てだんだん大きくなってきた、と受診されることが多いです。マダニは口器を皮膚に刺しこんで吸血するため、無理にひっぱると口器が皮膚に残ってしまい、後にしこりができることがありますので皮膚科を受診し適切に除去してもらいましょう。



(皮膚科医師 梅森)

## 熱中症にご用心

「もう8月?」と勘違いしそうな暑い日があります。テレビ、新聞では熱中症の話題で連日賑わっています。今年は5月後半から暑い日がみられ、暑さ対策が例年以上に長く必要になりそうです。



今回は熱中症のお話です。亡くなる人もいると聞くと、どんな苦しい症状が出るのが不安になるかもしれません。しかし、その始まりは苦しいというよりは少し変だなど感じる程度のもので。すなわち、身体がだるい、力が入らない、手足がしびれる、筋肉がピクピクする、ふらつく、頭がボーとするなど、ちょっとした異常で始まるのです。しかし、そのまま油断しているとまずいこととなります。動けなくなる、意識を失ってしまうなどすると、どんどん重症化して取り返しのつかないことになりえます。変だと感じたら、大事をとってすぐに行動を起こしましょう。帽子をかぶる、傘をさす、日陰に入る、座る、横になるなど今よりも快適な状況にしましょう。そして熱中症を疑い水分を取ります。これだけでスッキリし回復する人が少なくありません。「水分は取っています」と言われる人でも500mlのペットボトルを1日1本程度のことが多いようです。これからの季節これでは足りません。2~3本分くらいは取ってもらいたいものです。ただし、水やお茶だけだと、塩分が足りなくなります。スポーツドリンクを飲むか、塩や梅干しなども一緒にとることを心がけましょう。

スポーツや畑仕事では水分を十分に準備してください。冷房の効いていない室内で倒れる人もいます。熱中症は他人事だと思わないことが大切です。

(救命救急センター医師 内藤)

当院の

医療技術職員

業務紹介 Part9

## 診療放射線技師の業務紹介

### その4 「アンギオ」

「アンギオ」とは血管造影検査(アンギオグラフィー)の略です。

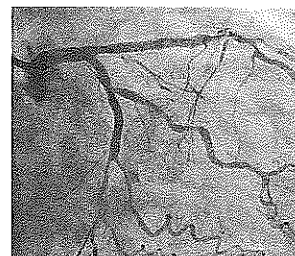
1930年代頃に登場したこの検査により、手術をしない限り見ることのできなかった血管の形態が、ほとんど身体を傷つけずに見られるようになり、心臓、頭部、腹部等の血管の検査は目を見張るほどに発展しました。

検査方法やその手技などは様々ありますが、一般的には、手や足の血管からカテーテルと呼ばれる細い管を入れていき、目的の血管に達したところでカテーテルから造影剤を流し、X線撮影することで血管をはっきりと写し出します。さらに現在、この血管造影検査の手技が、様々な病気の治療にも用いられています。例えば、血管内に挿入したカテーテルを操作して、動脈硬化などにより狭くなった血管を、ステントと呼ばれる筒状の金網で広げたり、動脈瘤にコイルというものを詰め、血管が破れるのを防いだり、がん組織に栄養を与える血管を詰めて、血流を遮断してしまうといった治療が行われています。

私たち診療放射線技師の役割は、撮影装置の管理、撮影画像の画質の管理、患者さん及び医療スタッフの被曝低減、患者さんの被曝線量の測定・管理等があります。また休日、夜間等、緊急検査でも対応できるように24時間待機しています。

血管造影検査は、医師を中心に、専門的な知識をもった医療スタッフ(看護師、臨床検査技師、臨床工学技士、診療放射線技師)が万全な体制で行いますので、患者さんには安心して検査を受けていただきたいと思っています。

(診療放射線技師 荒川)



心臓冠状動脈造影